

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703667		
法人名	有限会社 精祥		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	北九州市八幡西区陣原3-25-1		
自己評価作成日	平成27年1月27日	評価結果確定日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成27年1月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

毎日2ユニット合同レクリエーション、(起立訓練など)を行い、中庭には(花や菜園などで)季節感を取り入れる工夫をしています。地域との交流にも取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのぞみ」は2ユニットで、同じ建物には有料老人ホームがある。JRの駅から徒歩圏内で、近くには大型ドラッグストアや広い公園があり、散歩などに適した環境にある。法人の理念に基づいて運営を行い、定期的に法人主体の会議、委員会が開催されている。事業所として、年に1回の祭り(前回は秋)を有料老人ホームと共同で開催したり、地域の祭りや清掃活動等に参加したり、また地域との防災協定締結を予定をしたりと、近隣との交流も行っている。管理者を中心に情報を共有、家族を含めた信頼関係をもとに支援を広げている。家庭的な雰囲気の中で明るく過ごし、食事や入浴、外出などにおいても、楽しくなるような工夫を行い、残存能力や意欲を引き出す事にも努めている。医療機関との連携体制も築かれ、家族にも安心感が広がり、今後も展開が楽しみな事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後職員全員で理念を唱和し実践につなげている。	法人理念が各ユニットの入口に掲示されており、目指す介護サービスのあり方を明示すると同時に、地域密着型の視点も盛り込まれている。朝礼の場などでの確認に加え、新人研修の際にも説明、理念に沿った日々のケアを全職員で共有して実践につなげている。また職員全員が、理念に基づく各自の目標を、毎年設定している。	職員が各自の目標を立てるうえで、わかりやすく、また目標を達成したかどうかの目安にもなるような、事業所独自の理念を新設したらいかがか。法人の理念を継承した、具体的で、この事業所だけの事情や特徴、持ち味を盛り込んだものであれば、事業所の目指す方向がより鮮明になるように思われ、期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会主催のイベントの参加や事業所の祭りに招待している。その祭りには、地域の方がボランティアで参加もされている。また年2回地域清掃活動に参加し交流を深めている。	自治会・町内会に加入、清掃活動や夜警等に参加、地域との防災協定締結の予定もある。事業所主催の行事に関しては委員会主導で計画し、年に1回祭り(前回は秋)を開催して賑わいを見せる。地域の春祭りに作品を出品したり、保育園の行事や、ボランティア・実習生の受け入れを通しての交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居、介護相談などについては、パンフレットを置きいつでも相談に応じられるようにしている。また運営推進会議の中で地域の役に立つことがないか声をかけている(災害時の避難場所の提供)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加して頂き、2ヶ月に1回開催している。活動報告・入居者様状況・地域行事情報交換など行いサービスの向上に生かしている。	開催は定着している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を、事業所発行の「のぞみだより」を渡して報告し、参加者からの意見(最近では、定例の行事開催、緊急時の対応の事など)に基づき、サービス向上に生かしている。また、開催後議事録は玄関にて閲覧を行っている。運営推進会議を、職員以外の方の目を通して、事業所の発展に向けて話し合う場と捉えている。	自治会役員、包括職員、民生委員らで構成しているが、メンバーが固定しているうえ欠席者もあり、家族の出席がない。議事の内容の偏りも懸念される。開催日時の工夫や調整は行っているようではあるが、行事や勉強会と同時に開催して参加し易くしたり、同業者や、地元の有識者、知見者らの参加も検討してはいかがか。これにより、さらに様々な意見が出て、サービス向上に役立つ会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設内で起こった問題等を包括支援センターへ相談するように心がけている。	市からのボランティアの受け入れを行ったり、定例の報告を行ったりしており、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センターとの交流もあり、運営上で困っている事、疑問点などについての相談を行ったり、また、日頃から熱中症やインフルエンザなどに対するアドバイスを受けたりするなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福祉用具(センサーマット・リクライニング車椅子)など活用して拘束をしないケアの取り組みを行っている。また月1回安全対策拘束委員会・スタッフ会議など開催し検討している。	マニュアルが完備されている。日中は出入口の施錠はせず、センサー等の使用もない。職員は、利用者の離脱傾向を把握、見守り等を行って、安全面に配慮している。実際に拘束は行っておらず、車いす上で抑制が必要な方にはリクライニング式車いすを使用したり、ベッド柵が必要な方は床で寝てもらおうにしたり、といった工夫を行っている。研修の機会も設けており、その資料等もある。	

H26自己・外部評価表(グループホームのぞみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる行為が見られたら時は、個別に面談などを行い注意を促し、虐待をしないように防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないが、市町村研修に参加し、研修後、勉強会にて内部研修など行っている。入居時に説明をするようにしている。	事務所にパンフレットは備えている。これまでも利用者はなく、制度に関しては入居(契約)時に、事業所側が必要と判断する方に対して説明しているが、それ以外には特に説明していない。	制度の利用者の有無にかかわらず、外部の研修を活用し、その伝達研修を行う事により、職員の理解が深まるものと思われる。今は「入居時、必要な方」のみになっている家族への説明の機会についても、併せて検討していただけると、さらに支援につながるものと思われ、期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安・疑問点などあれば遠慮なく言って頂けるように配慮し納得して頂けるように図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が、職員への意見や苦情を投函できる意見箱の設置や要望があれば書いて頂く用紙を郵送している。面会時での意見や苦情は記録に残し会議(苦情委員会)で報告し対応策など講じている。	職員が傾聴する事で得られる、入居者の願いや要望等に対しては、速やかに対応している。家族からは、面会時にじっくり話をする事で、多くの意見を吸い上げ、改善に結び付けている。苦情に対しては、内容を記録して全職員が共有、委員会を通して改善策を講じる。家族会は現在休止、家族は運営推進会議にも出席していない。	家族の意見や提案、苦情等について、個別にコミュニケーションを図る中で前向きに対応している状況ではあるが、会議などで、意見を述べたり、他の出席者の考えを確認したり、情報を交換したりする機会を、事業所側から作っていただくと、さらに運営上の意見の反映に結びつくものと思われ、期待をしたい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議を開催し問題があれば意見交換している。また特定と合同で会議を開催して意見交換・情報交換、ケアの改善などの機会を設け、反映させている。	定期開催の会議の中で職員は、意見や気付き等何でも言える環境にある。また管理者はそれを積極的に運営に取り入れ、職員の意欲にもつなげており、信頼関係を築いている。最近の事例では、職員の休憩時間の十分な確保に関して検討された件がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成前にあらかじめ希望休等聞き極力職員の生活状況と希望に応えられるようにしている。また病気、冠婚葬祭など急な変更にも対応できるように勤務の調整に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別や年齢などの理由に採用対象から排除しないようにしている。職員についてもレベルアップできる様に内部研修、外部研修、資格研修など参加して頂くように配慮している。	採用選考において、介護に対する考え方や人柄を重視、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。20代から60代までの幅広い年齢層の職員が働いており、他国籍の職員の雇用もあった。また、入職後のスキルアップ、資格取得の支援にも前向きで、体制も整っており、安心して働ける職場環境を目指し、安定したサービス提供につなげている。	

H26自己・外部評価表(グループホームのぞみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	基本理念にもとずいた人権教育を、全体ミーティングや朝礼、夕礼時、折にふれ実施している。	外部研修の参加と、その伝達研修が行われており、日頃管理者からの指導もある、職員は、利用者一人一人がその残存能力を最大限に活かす事ができるよう、その人らしさを大切に受け止める支援の実践に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講する職員に対して、受講費用は、全額施設が負担している。また受講後、他の職員に伝達研修など行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同施設系列のグループホームとの定期的な会議、実習勉強など行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い顔なじみの関係を作り、体験入居も行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても充分説明を行い納得されるまで、ご相談を受け止める力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況を見極め、ご本人、ご家族の希望などサービスの必要性があれば利用できるように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設見学や体験入居をしていただき、職員や他の入居者様、場の雰囲気など体験して検討して頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り、ご本人の希望に添えるように家族と共に連携、協力して、ご本人を支えていく関係を築いている。		

H26自己・外部評価表(グループホームのぞみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺の住職がお経を唱えに來られたり、以前住んでいた近所の方が面會に來られたりと、1人ひとりの思いを大切に、希望に応じて支援している。	管理者および職員は、利用者の馴染みの場所や人について把握している。以前行った事のあるスーパー、店(外食)などへ個別に職員と出掛けたり、家族が美容院へお連れしたり、手紙で連絡をとったり…と、利用者が馴染んでこられた関係や、地域住民とのつながりを継続できるよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格など職員が把握し、どの利用者様も良い関係が築けるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後何かお困りでもある時は相談に応じる事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅へ帰るとの思いが強い方には傾聴を行い、散歩やご家族との面會、外出など行いご本人の思いや意向に答えられるように努めている。	入居者の思いや意向については、會議などにおいて、なるべくそれが叶えられるように、また職員の間で共有できるように、話し合いを行っている。記録は、事業所独自のアセスメントシートを使用している。日々の利用者の言葉や行動、仕草、表情などを通して、意思疎通が困難な方も含め、本人本位の支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から聞き取りを行いアセスメントシートを作成し職員間で共有できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お手伝い(おしぼり巻・食器拭き・床掃除・花の水やりなど)や會話などを通して、心身状態を見極めながら支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状態変化時、退院時(医師・看護師・SW)ご家族、介護士(担当者)、管理者、ケアマネなど必要な関係者と話し合い介護計画の見直しをしている。	月1回カンファレンスで話し合われた事や、日々の記録、かかりつけ医をはじめ関わる多職種からの意見、利用者や家族の要望などを含めて、作成責任者が介護計画としてまとめている。3ヶ月に1回または随時見直しをする。その都度家族への説明を行い、署名をもらっている。計画の内容は職員が共有、援助項目についての実践状況を毎日記録する事で、日々のケアに活かされている。	

H26自己・外部評価表(グループホームのぞみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を明確に記録している。また課題表を作成し情報の共有や介護計画の見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後も取り組んでいく。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し安全で入居者様が楽しいと思える様に支援していく。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を優先している。特に意向がない場合は、GH提携医を紹介している。	これまでのかかりつけ医の受診継続は可能で、家族付添いが原則であるが、入居者の状態によっては職員が同行する事もある。家族付添い時は、家族に状態や近況を報告し、受診後は状態の聞き取りを行い、夕礼等で職員に伝達し共有している。提携医や歯科、皮膚科の訪問診療があり、施設内でインフルエンザの予防接種もできるなど、医療機関との協力体制は整えられている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を図り入居者様が適切な往診、受診を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談にも努め病状把握を行っている。またご家族と連絡、面会など行い安心して治療できるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いの場を持ち、必要によっては、主治医と話し合いを行いスタッフ全員で方針を共有している。	重度化した場合の指針があり、契約時に本人や家族に対して、予め事業所内で対応しうる支援についての説明をしている。点滴程度は対応可能であるが、酸素吸入が必要となるなど、さらに重篤となった場合は、家族と主治医と協議し、協力医療機関等へ紹介を行う。情報を共有し、適切に支援を行う体制が整えられている。	

H26自己・外部評価表(グループホームのぞみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えすべての職員が、応急手当や初期対応できるように訓練を定期的に行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の避難訓練や地域の防災訓練などに参加。地域との協力体制を行っている。	年2回、昼夜を想定して、同建物内の有料老人ホームと合同で避難訓練を行い、施設横の公園に全員で避難し、その後反省会を行い、次回の避難訓練時に役立っている。消防署が立ち会うこともあり、立ち会わない時は避難訓練の計画・報告書を提出している。非常用の水や米等の備蓄は、有料老人ホームと合わせて2日間分確保されている。	毎年定期的に避難訓練が行われており、災害時に備えられているが、地域住民の参加がない。事業所も必要性を認識、今後は地域と防災協定を締結し、施設の避難訓練に地域住民の参加協力を得られるように進められている状況である。今後、地域住民の参加が得られ、協力体制が整えられる事に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	年1回、定期研修予定に組み込まれ、倫理及び法令遵守に関する研修や、接遇マナーに関する研修も行われている。言葉や声掛け等も職員同士や、管理者からも注意し合う体制も構築されており、日々のケアの中で活かされ、入居者一人一人を尊重した対応や支援が行われている。	毎年定期的に全職員に対して研修が行われ、人格を尊重し声掛けにも配慮され、日常的に実践されているが、入居者の写真が、「のぞみだより」の配布物や施設内に掲示されている状況があり、入居者の写真を使用する事の同意を、書面を通して得る事が望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力に合わせた働きかけを行いご自分で決定できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせて散歩、家事活動をしたり歌を歌ったりと希望に添った支援をしているが、危険が伴ったり、トラブルのもとになる場合は希望に添えないこともある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族、ご本人の希望を優先し対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望食を聞いたり、後かたづけ、テーブル拭き、食器拭き、床掃除など、無理強せずできる範囲内でスタッフと共に行っている。	調理委員会で1ヶ月の献立表を作成しており、中には、希望食(入居時に嗜好やアレルギー等を聞き取っている)や行事食も取り入れている。職員と入居者も出来る範囲で手伝って調理し、治療食も対応可能である。中庭の「いこいガーデン」でそうめん流しやスイカ割りをしたり、畑で育てたトマトやピーマン等を職員と入居者が一緒に収穫し、食材に使用。外食や弁当を注文する事もあり、食事に楽しみや変化を持たせ、優しいBGMの流れる中で提供されている。	

H26自己・外部評価表(グループホームのぞみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を確認し記録している。必要な水分量が確保できるよう、毎食、午前、おやつ時、夜間、入浴後、その他、希望時飲料を提供させていただいている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアを支援している。ご自分で出来ない方はスタッフ介助にて行っている。口腔内に問題があればご家族に相談し、歯科の受診、往診など対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しその方の力を見極め排泄の自立に向けた支援を行っている。	車いすの対応もできる広いトイレが各ユニットに4ヶ所あり、スムーズに介助できる環境が整っている。全員の水分摂取量や、排泄チェック表を記録する事で、パターンを把握し、周囲に配慮した声掛けでトイレへ誘導している。病院よりおむつ使用で退院となった入居者が、リハビリパンツ使用に変更し、トイレで排泄できるようになる(最近3名)など、自立に向けた支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分管理(水分量チェック表)食事工夫。排尿排便管理(チェック表)を行っている。また排便困難な方は、主治医と相談しながら薬のコントロールなど行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調とタイミングに合わせて入浴して頂いている。	基本は週3回の入浴であるが、希望により、時間や曜日、回数は柔軟に対応できる。一番風呂等を希望される方には相談しながら対応可能である。個浴のかけ流し風呂で、季節により屠蘇(とそ)湯や、ゆず湯等を行い、また、好みのシャンプーや石鹸等の持ち込み可能で、入浴を楽しんでもらうように配慮されている。入浴を通して、職員が皮膚状態や体調を確認して、日頃の対応に結び付けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった安心して入眠できる様に支援している。中途覚醒、不眠時はフロアにてスタッフと共に過ごさせていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様別の薬ファイル、薬手帳があり、変更などあれば、連絡ノートに記載し変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力を見極め、気分転換が図れるように支援している。		



H26自己・外部評価表(グループホームのぞみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に合わせて戸外に出かけられるように支援している。またご家族やご本人からの希望であれば対応している。	日頃の散歩コースとして、近くの畑の野菜の成長を楽しみながら、安全な歩道を車いすの方も一緒に散歩している。公園(事業所周圍に2ヶ所)では、季節の花を眺めたり、歌を歌ったりもする。また、月1回は花見等のドライブの他、市民センターのコンサートや、保育園の運動会など、普段行けない場所への外出の機会を多く設けている。入居者の個別の外出希望時は家族へ連絡して協力しながら支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの力に応じて、またご本人の希望があれば、ご家族に相談して所持して頂いているが現在どなたもいない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を居室に取り付けている方がいます。また居室担当スタッフと共に年賀はがきを出したり支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があり、季節に感じられるように花、野菜など植え込んでいる。常に清潔に配慮し居心地よく過ごせるような工夫などしている(日差しの強い時はよしずなど利用している)	各ユニットのフロア兼食堂は中庭のテラスを囲んで設置されている。窓から見える花や野菜に加え、壁に飾られた季節ごとの飾り(入居者と職員が一緒に製作)からも、四季を感じる事ができる。大きなソファ、畳の間も設置され、ゆったりとくつろげるスペースがある。切り絵の作品、写真等の他、施設長の特技だという書道の作品も各ユニットに飾られており、家庭的な生活感を醸し出す工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにおいて談笑できる場所を提供したり、ご本人の思いを尊重した支援をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、好みの茶碗、お箸など使い生活して頂いている。	各居室は明るく、窓から外の風景が見え、季節の移ろいを感じられる。床はフローリングで、適宜マットを使用する。電動ベットや寝具、筆筒等を事業所が用意、居室内の洗面台は車いす対応可能。ぬいぐるみやいすや柱時計等の馴染みの物の他、位牌、テレビや電話等を持ち込んでいる方もいる。居室内のレイアウトも、動線を考えて安全に考慮した配置となっており、居心地よい空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように張り紙をしたり危険とおもわれる物は、排除し環境整備を行い安全に生活が送れるように工夫している		